

「崩岸(アズ)辺にて — 稲城の崩れる山と崩される山」

2022年1月10日 「たましらべ」 19:00-

1 稲城市大丸の「崩岸」

「たましらべ」にて、南武線南多摩駅西の急崖が府中競馬場(1933年11月8日開場)をつくったとき、ここの山砂で水田を埋め立てるため削られたことを知る

○子どもの頃から見ていたが、削られてあるのを当たり前のこととして意識していなかった

2 万葉集のなかの「崩岸」

アズとは崩れた崖地の普通名詞

「あずの上に駒をつなぎて危ほかと人妻児ろを息に吾がする」(3539)

「あず辺から駒の行このす危はとも人妻児ろをまゆかせらふも」(3541)

崩れそうな崖を舞台にして人妻への危うい恋心を歌ったもの

埼玉県飯能市の入間川沿いの阿須(アズ)運動公園に歌碑がある

3 大丸・大麻止乃豆乃天神社 (おおまとのつのでんじんしゃ)

おおまとのつ-「大きくて丸い平地にある船着場」の意

古多摩川の沖積層であるアズ地質を切り開いて社殿が建設されている

972(延喜5)年の「延喜式内社」に記載あり

祭神は櫛真知命(くしまちのみこと)、ト占の神

「武蔵野に占へ肩焼き真実にも告らぬ君が名トに出にけり」(3373)

4 大丸のOff limits — 多摩サービス補助施設

多摩市蓮光寺と稲城市大丸・坂浜にまたがって所在する米軍施設

1938(昭和13)年火工廠多摩火薬製造所の開設、終戦時の敷地面積約173万0572㎡、従業員数2085人

1946(昭和21)年GHQに接収、空軍の弾薬庫として使用

1969(昭和44)年ゴルフ場が建設されレクリエーション施設として運用が始まる

占有面積東京ドーム41個分、年に一度「稲城フェスティバル」で開放

5 「十年ゴム消し」 — 南山東部土地区画整理事業

西山の大露頭—稲城砂層のうえに関東ローム層、私有地

戦後20年代頃より削り取られ、その後に平坦地ができる

1964(昭和39)年東京オリンピック開催

1971(昭和46)年京王相模原線が京王よみうりランドまで、昭和49年には多摩センターまで開通

→高度経済成長期に、オリンピック開催のための首都高や地下鉄整備に使われた砂利の採掘や、

京王相模原線開通のために大きく削られた

1970(昭和45)年南山東部地区は市街化区域に決定される

→区画整理事業への引き金

「地元農家が何十年も重い固定資産税を払い、相続税対策として先祖代々の山を開発するしかないと考えている為です」地権者・内田竹彦さんの訴え-2009年7月11日「朝日新聞」

2006(平成18)年土地区画整理法に基づく認可を受け事業がスタート、多摩丘陵の一面を占める約87ヘクタールが対象で、組合(地権者)主体、都や市も補助金を出す

「自然環境に最大限配慮した計画」 - 「南山東部地区のまちづくり」 稲城建設市街地整備課令和2年4月改訂版

- ・ 組合と「南山の自然を守り育てる会」との相互協議
- ・ 組合と「エリアマネジメント南山」(一般社団法人)との相互協力

○南山=ゴム消し山 2022年

東日本大震災を経て風景の見え方が決定的に変わった、造成地と被災地の酷似

「開発?破壊?」

6 「墓石に、と彼女は言う」 一通称「ありがた山」

昭和15年から18年頃にかけて、関東大震災後、都内駒込周辺の廃寺などに放置されていた無縁仏や石仏、石像を日徳海という宗教団体が一つ一つこの地に運んできたことから、この名がついた。

南山山腹に四千数百体の墓跡群が祀られている

○子どもの頃の遊び場であった「ありがた山」も、この墓跡群がかるうじて残っているばかりになり、それを自分の目で確かめたときの、足元が空っぽになるような感覚

7 風景と「私」

「人々の身近な生活環境に対する空間理解は非常に乏しく、自分の直接的利害に降りかかってこなければ関心の薄い人が多い」 -大澤のり子「里山コモンズとしての稲城市南山のまちづくり」

「森を傷つけることは自分を傷つけること」エクアドル・シュアール族セバスチャンのことは-映画『カナルタ 螺旋状の夢』より

「たしか昭和三十五年にはチェーンソーが入ってきて 山仕事も変わっていくんだね
そしてだんだんトラックやおっきな重機が入るようになって 山肌に幅の広い道 ジグザグって
つくようになったんだなや

おれはそれ見っと 自分の身体、傷つけられたようになる」宮城県丸森町の民話の語り手のことば-小森はるか+瀬尾夏美『山つなみ、雨間のかたらい』より

8 万葉の残響 — 「駒」から「獅子」へ

「赤駒を山野にはがし捕りかにて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ」(4417)

南山区画整理地では立ち入り禁止の表示がライオンの絵で統一されている